

# 院内感染対策だより

第4号  
H21.8.4

## 新型インフルエンザについて



### 原因ウイルス

新型インフルエンザは、現在鳥や豚の間で感染しているインフルエンザウイルスが変異を起こし、ヒトに感染し、さらにヒトからヒトへ容易に感染できるようになったウイルスが原因で起こります。

2009年4月、メキシコにて、豚由来のインフルエンザウイルス(H1N1 亜型)が新型インフルエンザとして確認されて以降、世界各地でヒトへの感染が発生しています。この豚由来の新型インフルエンザについては、更に変異を起こし、強毒性を獲得する可能性もあり、今後も十分な注意が必要です。

### 新型インフルエンザはこうやって感染する

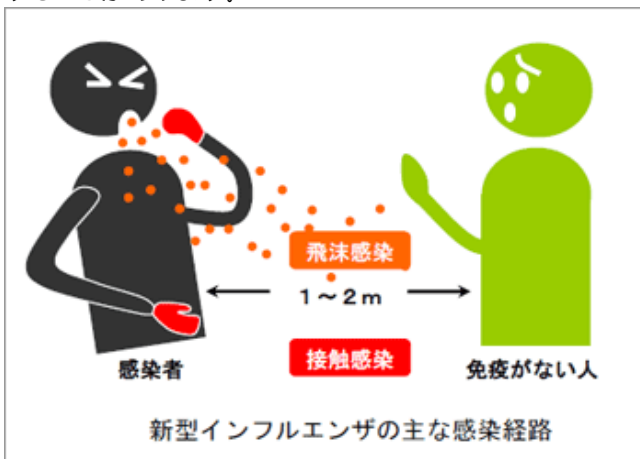
#### 【飛沫感染】

感染した人の咳、くしゃみ、つばなどとともに出されたウイルスを健康な人が吸い込むと感染することがあります。

#### 【接触感染】

感染した人がくしゃみや咳を手で押さえた後や鼻水を手でぬぐった後に他のもの(机、ドアノブ、つり革、スイッチなど)に触ると、ウイルスが付着することがあります。

その付着したウイルスに健康な人が触れた後に目、鼻、口に再び触れると、粘膜・結膜などを通じて感染することがあります。



### 主な症状

1. 咳や鼻水が出る
2. 38 以上の突然の発熱、全身のだるさ
3. 頭痛、筋肉痛等がある

### 予防

#### 1. 手洗い

手洗いを頻繁にすることによって、接触感染の可能性を大きく減少させることができます。

手洗いの方法は、石けんと水で手を洗う場合は15~20秒間かけてしっかり洗うこと、また、アルコールを含んだ手指消毒剤を使用することも勧められます。

#### 2. マスク

インフルエンザにかからないために、外出時にはなるべくマスクをつけるようにしましょう。

また、かかってしまった場合には、他人にうつさないためにマスクを着用しましょう。

#### 3. うがい

のどに付着したウイルスを洗い落とし、粘膜をなめらかにする効果が期待できます。帰宅時にはうがいの習慣をつけましょう。

4. 必要のない外出は控えてください(特に人が集まる場所)。

外出したらうがい、手洗いを行って下さい。

### 新型インフルエンザにかかったかな?と思ったら...

1. 必ず電話で事前に連絡し、受診する時間や入口などについて問い合わせてください。

### 本人・家族が新型インフルエンザにかかったら...

(1) 医療機関を受診すると同様に、必ず電話で事前に連絡し、受診する時間や入口などについて問い合わせてください。

(2) 受診する時はマスクを着用します。マスクがない場合は「咳エチケット」を心がけ、周囲に感染させないように注意してください。

(3) 公共の交通機関(電車、バスなど)の利用は避け、できる限り自家用車などを利用してください。適切な交通手段がない場合は発熱相談センターに問い合わせてください。

(4) 感染が確認されたら入院して治療を受けることになります。

(5) 感染している可能性が高い同居者などは外出を自粛し、保健所へ健康状態を報告することが法律で定められています。また、状況に応じて抗インフルエンザ薬(タミフルなど)が配布されることがあるので、保健所からよく説明を聞きましょう。

新型インフルエンザについては平成21年6月12日世界保健機構(WHO)は世界的にまん延状況にある(フェーズ6)との宣言を行いました。我が国においても秋冬に向けて、大規模な流行をおこす可能性があります。

そこで、今回は、皆さんに新型インフルエンザについて正しい知識を持っていただくため特集しました。



## インフルエンザ治療に使われる薬について



### 抗インフルエンザウイルス薬

発症から48時間以内に使用開始すると、発熱期間は1~2日短縮され、ウイルス排泄量も減少します。しかし、48時間以降の開始では十分な効果は期待できません。一方、処方された場合は症状が改善されても薬はなくなるまで用法を守って服用します。耐性ウイルスの発現を助長しないために必要なことです。

タミフル : カプセルとドライシロップ。(10才代の患者への投与は差し控えるよう通達されています。)

リレンザ : 吸入。タミフルの服用を避けたい患者につかわれます。

シンメトレル : 錠剤。A型にだけ有効性が認められています。

### 解熱剤

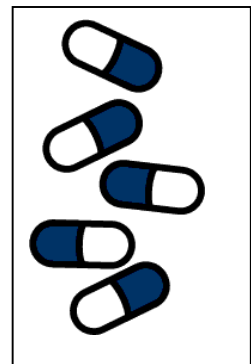
発熱はウイルスにたいする正常な生体防御機能のひとつです。しかし、場合によっては解熱剤の投与も必要になります。ところがほとんどの非ステロイド系消炎鎮痛剤(PL含む)はインフルエンザ脳炎・脳症の患者に禁忌または慎重投与となっています。危険性の低いものとして推奨されているのはアセトアミノフェンです。

カロナール : 錠剤と散剤

アンヒバ : 坐薬

### その他

症状をやわらげるための鎮咳去痰剤、抗ヒスタミン剤、二次感染症に対する抗生剤、熱性痙攣に対する抗痙攣剤などがあります。



## 話題の異常行動について



インフルエンザウイルスに感染した場合、タミフルの服用の有無にかかわらず、異常行動が認められています。またまれに脳炎・脳症をきたす報告もあります。そのため、万が一の事故を防止するために特に小児・未成年者に対しては、インフルエンザと診断され、治療が開始されたあとは、少なくとも2日間患者が一人にならないように配慮することが重要です。

金沢医科大学氷見市民病院ICT発行